

第72回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

小学生の部 可児地区更生保護女性の会 会長賞

あたたかい地いきの輪

可児市立春里小学校 5年
末木 翔大

ぼくは、いじめや非行、犯罪行為をしたいと思ったことは、これまで一度もありません。それは、ぼくのめぐまれた家庭環境と春里というあたたかな地いきのおかげだと思います。

ぼくは祖母の家の近くに住んでいて、いつも多くの家族に見守られています。辛いことがあります、だれかに八つ当たりをしたくなるような時も、家族にやさしい言葉をかけてもらい、はげましてもらううちに、胸の奥があたたかくなり、いやな気持ちがだんだん消えていきます。そして家族にやさしくしてもらった分、ぼくもまわりの人にやさしくしようと思えてきます。

ぼくの住んでいる春里は、自然豊かで、のんびりとした所です。ぼくは今まで、この春里の多くの地いきの人々にも支えられてきました。登下校中は、

「おはよう、元気だね。」

と、近所の方やサポーターさんが、声をかけてくださいます。苦手な授業があり、学校に行きたくない日などに、元気に声をかけてくださると、ぼくも気力がわいてきます。

コロナで休校期間中、ぼくはランニングを日課としていました。数日すると、近所の方が、

「毎日がんばっているね。これからもがんばってね。」

と声をかけてくださるようになりました。この方との言葉のやりとりは、友達とも会えず冷たく固まっていたぼくの心を、明るくすがすがしいものに変えてくれました。ゆううつだった毎日に、あざやかな希望の光が差しこんだように感じました。ぼくはあたたかなやり取りや、思いやりのある交流が、ぼくの希望となったのだと思います。

春里では、「花いっぱい運動」というごみ拾い活動や、子ども会での資源回収や、草刈りといった奉仕作業があります。ぼくはこの奉仕作業に参加する時は、いつも大きな声で元気にあいさつするよう心がけています。そして日ごろの感しゃをこめて、せいっぱい奉仕作業をします。すると近所の方は、そんなぼくにこやかに、

「ずいぶん大きくなったねえ。がんばってくれてありがとう。」

などと、声をかけて下さいます。ぼくは奉仕作業というあたたかい交流から、もっと地いきのためにがんばろう!!新しいことにも挑戦していこう!!という勇気や、元気をもらっています。

このように、ぼくの住んでいる環境はとても、めぐまれています。ぼくを応えんし、支えてくださる方が、まわりにたくさんいるからです。それでは、犯罪や非行、いじめに走ってしまう人達はどのような人達でしょうか。ぼくは、ニュースで悲しい事件を見る度に、その背景には本人にしか分からない、何か辛い事情があるように感じます。コロナや不景気などで仕事を失い、生きるために仕方なく罪を犯してしまう人、様々な事情で家に帰っても甘えられず、安らぐことができず、ストレスを抱えていじめをしてしまう人など、みなそれぞれ背景に辛い事情があるという共通点があるように思います。ぼくだって今住んでいる環境が同じような状況になったら、ストレスや不満をどんどんためて最後は非行に走ってしまうかもしれません。だれもが環境によって、非行や犯罪に走ってしまう可能性があると思います。ぼくはまず、このことに目をそらさないでしっかり向き合うべきだと思います。非行や犯罪を犯してしまう原因となった環境を変えてあげることがその人を救い、犯罪や非行をへらす一番の近道になると思います。

ぼくの住んでいる春里では、ひどい犯罪やいじめはありません。それはこの地いきの人々が、共によりそい、助け合っくらしているからだと思います。